

# 「CAN-DO リスト」で授業を変える！

(その3)

## ～「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標 Q&A②～



「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標についての様々な質問に、回答を含め Q&A で紹介したいと思います。

\* 以降、「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標を「CAN-DO リスト」と略記します。

### Q 「CAN-DO リスト」に文法事項を含めてもよいか？

A 文法事項を含めることは可能です。

× 現在完了形について理解することができる。

○ 現在完了形を用いて、自分の経験について書くことができる。

などと、あくまでも、文法事項の理解ではなく、4 観点のうちの「表現の能力」「理解の能力」の観点から目標設定を行うようになります。

ただし、「CAN-DO リスト」に示されるのは、単元末の目標ではなく、卒業時や各学年末での目標ですので注意しましょう。

### Q 外部検定試験に関する到達目標を設定してもよいか？

例) ○○検定試験で○級、○点をとることができる 等

A 学習到達目標を設定した上で、外部指標として外部検定試験等を活用することは可能ですが、それ自体を目標とすることは、適切ではありません。

もちろん、入試、模試や校内定期テストについても、○点をとるなどと「CAN-DO リスト」に含めることも同様です。入試等の得点力をアップすることを目指したものではありません。

### Q 「CAN-DO リスト」の学習到達目標は、教室内活動に即したものにしなければならないか？

A 教室内の言語活動と実生活における英語の使用場面を区別する必要はありません。

教室内の活動は、実生活で活用することを想定して行っているわけなので、教室外の実際の指導場面があるのであればかえってそれはよいことです。

ただし、学習到達目標は、指導及び達成度を把握するための評価が可能であることが条件です。

**Q 「CAN-DOリスト」をそのまま生徒と共有してもよいか？**

**A** そのまま共有しても、生徒用に分かりやすく書き下したものを作成し、生徒に示してもかまいません。生徒と共有するだけでなく、保護者へ公表することも考えられます。

また、自己評価として活用することも、生徒の学習意欲を高めるために非常に有益です。ただし、自己評価を教師の評価に組み入れることはできません。

**Q パフォーマンス評価もしなければいけないか？**

**A** 英語を使って「～することができる」ことを評価しなければいけないので、筆記試験だけでは十分な評価ができません。スピーチ、インタビュー、またはエッセーなどのパフォーマンステストの充実が求められます。

最終的に目標を達成できるよう、個に応じたきめ細やかな支援も大切です。

**Q 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の評価を評定にどう生かすか？**

**A** 次の図から考えれば、「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標の評価に、他の2観点「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「言語や文化についての知識・理解」についての評価を加えて評定することになります。

<b>「CAN-DO リスト」の形での 学習到達目標の設定</b>			
コミュニケーション への関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
評価の基本的な要素（観点）			

**Q 「CAN-DO リスト」の見直しはいつ行うか？**

**A** 保護者への公表も考えれば、学年末が望ましいでしょう。

どのような場合に見直しを行うのかあらかじめ決めておく必要があります。

<参考資料>

・各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定のための手引き

文部科学省初等中等教育局 平成25年3月

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1332306.htm)